

令和4年度厚生労働省行政事業レビュー外部有識者会合 議事概要

1. 日時

令和4年5月9日（月） 10:00～11:50

2. 場所

厚生労働省省議室 ※外部有識者はオンラインで参加

3. 出席者

外部有識者：井出健二郎委員、伊藤由希子委員、栗原美津枝委員、鈴木亘委員、滝澤美帆委員、増田正志委員、松原由美委員、元吉由紀子委員、横田響子委員

厚生労働省：大臣官房会計管理官
政策立案・評価推進官

4. 議事内容

（議題）令和4年度公開プロセス対象事業の選定

厚生労働省から公開プロセス対象候補の11事業について、事業概要、選定理由及び想定される論点を説明。これを踏まえ、外部有識者による意見交換が行われ、その後の投票の結果、以下の5事業が今年度の公開プロセス対象事業として選定され、了承された。

- 医療・介護サービスの提供体制改革のための基金
- フリーター支援事業
- 女性の活躍推進及び両立支援に関する総合的情報提供事業
- 地域包括ケア「見える化」推進事業
- 特定健康診査・保健指導に必要な経費

5. 外部有識者の主なコメント

・候補事業の選定について

- 候補事業の選定について、厚労省はレビューシートも 1000 以上あり、予算額が大きい事業が多々あるにもかかわらず、今回の候補事業は規模の小さいものが目立つ。財政的な観点から重要性が高い事業や国民の関心が高い事業を多く所管しているの、そのような事業を選定するなど、候補事業選定のプロセスの透明化をするべき。
- 過去に公開プロセス対象事業となり、改善を求められた事業について、その後の改善が図られていないものがあるれば、再度取り上げるなどの対応も必要ではないか。
- 事業選定に当たって、予算額の多寡もひとつの指標である。選定事業が厚労省全体でどういう位置づけになっているのか、明確化した上で選定を行うべき。ただし、予算額が小さくても重要な事業はある。
- 事業規模が小さい事業であっても、非常に典型的な課題を抱えている事業もある。なぜこの事業を選定したのかという説明が重要である。
- 事業の選定の仕方が議論されているが、同じように事業評価の仕方も検討が必要であると考え。たとえばフリーターに対しどのような事業があつて、その中で当該事業はどのような位置づけなのかが分からなければ評価できない。また、税金を投入する以上、効果的な事業を実施するのは当たり前であるが、行政事業レビューは削減ありきではない。対象事業に対してどのような評価を行うのか、行政事業レビューを通じての評価の仕方について、引き続き検討して欲しい。

①医療・介護サービスの提供体制改革のための基金

- 行政事業レビューシートにおける執行率は、国から都道府県への交付に基づき算出しているため執行率が 100%となっている年度があるが、本基金については都道府県における基金の執行状況に課題がある。対象事業となった場合には、都道府県での執行状況などの資料も提供して欲しい。

③農業等ポジティブリスト制度推進事業

- 応札者が非常に限られているとのことだが、対応できる業者を拡げる余地があるのかどうかを検討すべきではないか。

④治療と職業生活の両立の支援事業

- 治療というと、様々な疾病があると思うが、例えばがん対策の一環として

既に実施されている支援制度との関係など、関連する支援制度との関係も含めて議論をすべきではないか。

⑤フリーター支援事業

- 雇用の多様化が進む中で、「フリーター支援」の対象はどのような方であり、若者支援事業など、関連事業も含めて議論をすべきではないか。
- 対象事業となった場合には、フリーターのみを対象を絞った議論を行うのではなく、他の制度との関連をきちんと整理した上で、本事業の位置づけを考えるべきである。

⑥女性の活躍推進及び両立支援に関する総合的情報提供事業

- 女性の活躍推進企業データベースへの情報入力が必要となること、精度に問題はないのか。

⑪特定健康診査・保健指導に必要な経費

- 特定健康診査等の実施率が低い事を論点とすると、本事業による経費補助の議論だけではなく、なぜ特定健康診査等の取り組みが進まないのかという制度の仕組み自体を議論する必要がある。そういった議論が出来るような材料、関連事業の情報を提供してもらいたい。
- 制度開始後、十年以上経過しているので、様々な論点・課題が考えられる。今回、投入した国費に見合う効果があるのか検討する良い機会ではないか。この点は、論点として非常に重要である。

⑫その他

- オンライン・ICTの利活用という論点が多く出ているが、個々の事業単位で議論をする前に、まずは省全体でどう取り組みを進めていく方向性や予定があるのかについて情報提供をいただいたうえで検討する必要がある。